

H23. 9. 5

第2回 第3分科会 審議メモ

第1回分科会(8/11)での審議の柱(論点)

- 1 学校の教育活動全体におけるバランスを配慮した郷土教育の取組
- 2 地域と連携した郷土教育の取組
- 3 家庭・地域との連携のあり方



【追加論点(案)】

- 4 国際的な視野も併せ持った郷土教育の取組

【ご参考】

第1回分科会での主なご意見を、3つの審議の柱(論点)ごとに整理

※事務局判断での整理です

1 学校の教育活動全体におけるバランスを配慮した郷土教育の取組

- ・量よりも質的な面で、本物に触れて地域への愛着や誇りを育める体験の機会を、小さいときから作って提供できることが重要である。
- ・教材「三重の文化」は、対象とする中学生全員に配布し活用すべきである。

2 地域と連携した郷土教育の取組

- ・子どもが地域において学び触れあうことで、家庭と地域がつながるよう、園や学校は補完の役割を果たしていく必要がある。
- ・地域の施設等の資源をもっと有効に活用できるよう、学校等の単位で、地域へ出て行けるための交通手段の確保が重要である。
- ・インターンシップや職場体験、体験学習等を通じて、郷土への理解や愛着が深まるという面からも、行き先の選定等も含めて

3 家庭・地域との連携のあり方

- ・コミュニティ・スクールの推進には、多様な能力・経験を持った、たとえば退職者など、地域の人材の確保・活用とあわせて、参画しやすい手法や仕組みを検討するなど、敷居を低くすることも重要である。
- ・親子、家族と一緒に学び体験できることは大切である。
- ・子どもだけでなく、保護者・大人へも啓発していくことも重要である。